

II 院内から避難しなければならない場合に行うこと

2. 治療器具が装着されている患者の避難方法

石巻赤十字病院救命救急センター看護師長・救急看護認定看護師 しぶや たかこ 澁谷多佳子

まず行うこと

避難誘導に際しては安全のためにも、原則として、しばらく中止しても生命の危機に直結しない器具を外す。日ごろから非常時をイメージし、基本的な行動はアクションカードやフローチャートを作成し、即応できるようにしておく(表1)。

人工呼吸器装着中の患者

日ごろから人工呼吸器の電源は無停電コンセント(赤)を使用し、非常時に備える。また、ベッドサイドには常にバッグバルブマスク(以下BVM)を準備し、災害だけでなく、急変に備えておく。

自発呼吸がない場合は酸素ポンペをベッドに取り付け、BVM、ジャクソンリース、携帯用人工呼吸器で人工呼吸を行う。このとき、酸素ポンペや携帯用人工呼吸器はしっかり固定する。自発呼吸がある場合は、酸素にTチューブ(または人工鼻にチューブ)を接続し、呼吸を確認する。

酸素療法中の患者

ベッドに酸素ポンペを取り付け、必要最低限の酸素をマスク、カニューラで流す。

点滴施行中の患者

点滴スタンドはベッドの足元に固定し、可

能な限りヘパリンロックとする。ヘパリンロックする時間がない場合や移動時間が短く、すぐに再開できる場合など、状況によってはルートのカレンメを止める。ただし、ヘパリンロックをしてはいけない薬剤(昇圧薬、降圧薬、血栓溶解薬、NTG製剤など)もあるため、必ず薬剤を確認する。

輸液ポンプを外し、手動で滴下を調節する。取り外しても直接生命が危機に陥ることのない医療機器は取り外す³⁾。

胸腔ドレーン挿入中の患者

歩行できる患者は、ドレーンをクランプして排液バッグを持参してもらう。歩行できない患者は、ドレーンをクランプして、低圧持続吸引器をベッドにガムテープで固定し、ポータブル吸引器で持続吸引を開始する。

胃チューブ挿入中の患者

歩行できる患者は、一時的にクランプし、歩行できない患者であれば、排液バッグをベッドに載せてベッドごと移動する。

上記以外のドレーン挿入中の患者

貯留している排液は、量を確認し、記録した上で捨てておく。歩行できる患者は排液バッグを持参してもらう。歩行できない患者は排液バッグをベッドに載せて移動する。

表 1 災害時基本行動フローチャート例（石巻赤十字病院，一部抜粋）

6 階地震マニュアル（昼間）

作成：平成 19 年 2 月 28 日

地震発生	震度 5 強以上で自主参集する。
患者の安全確保	<p>〈C チームの担当病室 東側〉</p> <p>各チームメンバーはガムテープを持参して回る</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) ベッドを窓ガラスから離し、ストッパーをかける 2) カーテンは引いておく 3) ベッドを平らにしてベッド柵を付けておく 4) 患者に頭から布団を掛け、頭部の保護をする 5) 人工呼吸器装着患者は酸素ボンベを確保し、バッグバルブで加圧できるようにしておく 6) 酸素使用患者も酸素ボンベを準備しておく。ベッドにガムテープで酸素ボンベを固定する (中略)
設備・備品の被害状況の確認	<ol style="list-style-type: none"> 1. ライフラインの確認（看護助手が行う） 電気・水道・電話・排水が使用可能か確認する 2. 設備状況の破損の有無確認（各担当病室を見回る時に確認する） 窓・天井・壁が破損していないか、酸素の漏れがないか確認する この時に火災発生の有無も確認する 3. PC 端末が作動しているか確認する（看護師長が行う）
出火防止の措置	<ol style="list-style-type: none"> 1. 各部屋で火災発生がないか確認する（各担当看護師が行う） 2. パントリーの給湯器の電源を止める 3. 出火している場合は、大声で周囲に知らせる
避難誘導・搬送	<ol style="list-style-type: none"> 1. 本部からの指示により、避難を開始する旨、看護師長より伝達を受ける（各チームリーダーはスタッフステーション〈看護師詰所〉に集合する） 2. 看護師長より避難経路の指示を受け、確認する 3. A チームの看護師 1 人は避難口で誘導する。避難開始時に「非常口はこちらです」と自動アナウンスが流れ、避難口の非常灯が点滅する 4. 独歩患者は A チーム看護師 1 名が先導して避難させる。患者には靴を履いてもらう 5. 護送患者は、B チーム 3 名・看護助手 2 名で避難させて、他病棟からの応援が来たら協力してもらう 6. 担送患者は C チーム 3 名・A チーム 1 名で避難させる。他病棟からの応援が来たら協力してもらう。階下へ降りるときは、担架・毛布・タオルケットを使用する 7. 避難が終了したら、各チームメンバーはリーダーに報告し、リーダーは看護師長に報告する

各種モニター

重症者は移動用モニターで監視しながら移動する。接続するのは必要最低限とし、動脈

ラインなどは移動時に引っ張られ抜去しないよう、加圧バッグごと患者のベッド上に載せる。

これだけは覚えておこう！

- ・ 避難誘導時に治療器具が装着されている患者は、しばらく治療を中止しても生命の危機に直結しない器具を外す。
- ・ ベッドサイドには日ごろから BVM を準備しておく。
- ・ 点滴スタンドや低圧持続吸引器など、転倒の危険性のある器具はガムテープでしっかりと固定する。